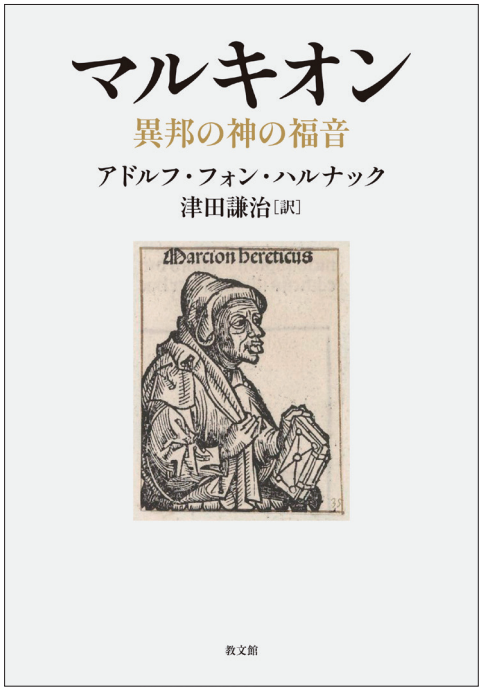
マルキオン

異邦の神の福音

アドルフ・フォン・ハルナック❖著　津田謙治❖訳



「異端の始祖」と呼ばれるマルキオンは、「教会の改革者」か？　それとも「新しい宗教の創設者」か？

仮現論や様態論などのキリスト論、新約聖書正典の成立、グノーシス的諸概念の分析など、教理史研究に不可欠なハルナックのマルキオン研究。約100年前の著作にもかかわらず、現在でも読み継がれる古典的名著の待望の翻訳！

❖著者紹介　アドルフ・フォン・ハルナック（Adolf von Harnack）　1851年生まれ。ベルリン大学神学部教授、カイザー・ヴィルヘルム協会総裁を歴任。著書　『教義史教本』（全3巻）、『キリスト教の本質』など多数。

❖訳者紹介　津田謙治（つだ・けんじ）　1976年生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程満期退学。京都大学博士（文学）。現在、京都大学大学院文学研究科教授（キリスト教学専修）。　著書　『マルキオン思想の多元論的構造――プトレマイオスおよびヌメニオスの思想との比較において』（一麦出版社、2013年）、『神と場所――初期キリスト教における包括者概念』（知泉書館、2021年）。訳書　J. N. D. ケリー『初期キリスト教教理史〈上〉〈下〉』（一麦出版社、2010年）、A. メレディス『カッパドキア教父』（新教出版社、2011年）、F. W. グラーフ編『キリスト教の主要神学者〈上〉』（共訳、教文館、2014年）、W. シュスラー編『神についていかに語りうるか』（共訳、日本キリスト教団出版局、2018年）。

A5判・上製・312頁・定価5,060円（本体4,600円+税）　ISBN978-4-7642-7473-0　C3016